

第1回長田区方針検討委員会（令和3年5月21日）議事要旨

内 容：

■ 長田区方針案・活用案説明

- ・「長田区方針 2021-2025（案）」に沿って長田区方針について説明。長田区計画 2016-2020 を受け継ぎながら、新たなビジョン「混ざり合い 共に生きるまち ながた」を描いており、それを達成するために目指すまちの姿・取り組みについても記載している。
- ・多言語表記をしたり、区職員への浸透をはかったりするなど、策定後の活用方法について説明。

■ 意見交換

○長田区方針の内容について

- ・（委員）同じ神戸市内でも区ごとに特色がある。長田区の外国人住民は家族で定住する人が多く、日本の中でも、「共生とはこうあるべき」という目標を示せる可能性がある。社会問題があるからこそ素晴らしいことができるということ盛り上げ、世界に広げていけると良い。
- ・（委員）婦人会のビジョンをつくる際にも、幅広く意見を出して進めていった。そうすることで、「普段の活動からおもしろくやるにはどうしたらいいか？」といった発想で取り組むことができた。難しく考えないで、気軽な、参加しやすい場になることが良いと思う。
- ・（委員）「おもろい」が見つかるまちという文脈で言うと、瀬戸内国際芸術祭等の芸術、文化に携わっている関係者から、長田は魅力的なところに映っているという話を複数聞いている。これは、多文化共生や震災以降に地域の人が率先して防災や空き家のリノベーション等のまちづくりを推進してきた背景があって、そのコミュニティの作り方に長田らしさが詰まっていると感じる。長田らしさを存分に発揮できるようにするのが良いと思う。
- ・（委員）「誰もが暮らしやすい未来のあるまち」と「みんなが癒され居心地のいいまち」が似た表現に感じるので、端的な表現にした方が良いのではないかな。
- ・（長田区）表現について検討する。

○策定後の活用について

- ・（委員）今回の長田区方針案のように何でもできるという感じにするのはいいと思うが、個々個別の取り組みと方針との関係性を区民に分かりやすくしていくこと、また、地域の声ともつながった策定後の運用を考えることが大事である。

- ・(委員) 昨年度で終了した区民まちづくり会議では、2年に1回、市長に報告してきたが、長田区方針を策定したあとの進め方が重要であると考えている。
- ・(委員) 以前の区民まちづくり会議にも参加していたが、長田区計画やその取り組みが区民に届いていないことが残念だった。例えば、子育てに関して言うと、子育てにやさしい取り組みをしているという情報がバラバラとあるのではなくて、ここを見たら全部わかるという風に整理して、区民が目にするものに掲載していくというのが大事なのではないかなと思う。
- ・(委員) 多言語表記をして終わりではなく、もっと外国人コミュニティが輝けるように考えることが大事で、コミュニティを通して情報は広がっていくので、外国人ネットワークと区方針をつなげていく必要がある。
- ・(委員) 情報発信にコミュニティが果たす役割が大事という話を聞いていて思ったが、連絡網のような発信ツールがあるとよいのではないかな。
- ・(長田区) 人と人のつながりを使った情報発信は大事である。
- ・(長田区) 今後も各委員に対して個別または集まっていた上で状況報告や意見交換の場を設ける。

○以前の長田区民まちづくり会議との関係について

- ・(委員) 長田区民まちづくり会議の各部会（事務局注：いきいき部会、ここちええ部会、おもろい部会）で醸成してきたことは面白いこともあったし、積み重ねもあった。このような部会形式は継続しないのか。
- ・(長田区) 部会をつくって事業をしていくという形は一旦やめようと考えている。部会という形をとっていないだけで、多文化共生もそうだが、色々な取り組みをすでに行っている。課題ごとに部会のメンバーと一緒に考えるというのもあるよと考えている。